埼玉支部報　第４号

目　次

福島支部との合同登山	1
三峰信仰	3
第３回安全登山講演会開催	5
５０山ラリー実施状況	5
インドネシア・スメル山（3,676m）登山の旅	7
自然保護委員会の活動紹介	9
埼玉支部委員会状況	10
同好会状況	10
会員異動状況	10

沼尻高原ロッジで田部井さんを囲んで

福島支部との合同登山(安達太良山・一切経山)に参加して　斉藤幹雄

6 月 11 日朝、小雨の羽生駅で正田さんご夫妻とお会いして鴻巣駅発のチャーターバスに乗り込みました。どなたもが心配したお天気も山に向かっていくと次第に収まりとうとう福島支部の皆さんとお会いした浄土平では雨が収まり、翌日の安達太良山は全く素晴らしいお天気に恵まれました。単純に晴れればうれしい山屋ですから本当にありがたいことです。

浄土平の観光ロッジでのお昼を済ませ出発、田部井さんには沼尻高原ロッジに 5 時との話、時間的に一切経は登らずに東吾妻山の麓を周る鎌沼コースを行く、雪渓が残り雨上がりの冷たい空気が清々しい、福島支部のご長老伊藤さんがガスの切れた鎌沼のほとりにたたずみ、雪解けの斜面に元気に生きる多くの花を一つ一つ確かめて「生きていて良かった」「ここに来れてよかった」と言いました、僕はそれを聞いて胸に迫るものがありました。本当に山を愛されていらっしゃるのだなと感じたのはもちろんですが、浄土平での「お客様は例年の 10%にも行かない、売り上げは 5%ほど」と聞いたことと合わさり「国敗れて山河あり」かと、伊藤さんの心境に察しが及びました。思いもよらない放射能の汚染とこの素晴らしい自然の変わらない佇まいに励まされ今再び実感として国（福島の）の復活を願ったのではないでしょうか。姥が原の姥神様に福島の皆さんと一緒にご挨拶させていただいたこともうれしいことでした。吾妻連峰を心底愛するこの日のリーダーの佐藤さんにもやはり長老伊藤さんと同じような感慨がきっとあるに違いないでしょう。植物の再生事業がボランティアによって成果を見せ

ている現場では素敵な湿原を次世代に託する吾妻を大切にする福島市民の気概も伝わって来ました。

吾妻小富士を背に雪渓を登る

姥神様

沼尻高原ロッジに泊まったのも田部井さんにお会いできたのもうれしいことでした。田部井さんにはご多忙の中を本当にありがとうございました、これからもお元気でご活躍をお祈りしたいと思います。そして田部井さんの「東北の山に登ろう、東北に元気を」をこのような形（福島支部の皆さんとの交流）で参加実施できたことは埼玉支部のお陰（埼玉支部設立一周年の両神山に参加できずに失礼いたしました）とありがたく喜ぶことが出来ました。

沼尻高原ロッジの評判のお湯はもちろんですが僕は夕食時（美味しいものだらけ）の特にニシンのさんしょう漬けがとても気に入りました。実は僕もニシンのさんしょう漬けを自前でやっていて「こんなうまいもの」といつも思っているので自信にもなったことでした。

素晴らしい宴とお湯でたっぷり睡眠のとれた朝、美味しいおにぎりをもって記念写真、調達のバスで林道を上り沼尻の登山口を 7:15 分出発、安達太良山を裏から登る感じ、いつもは登り口としている岳温泉に下るロングコース。 今日はやはり福島支部の小林さんがリーダー、イワカガミやヤシオつつじの咲く急登でネマガリダケを採り（全部で 15 本です、熊の大切なごはんですから遠慮しています）スケッチポイントを確かめながら一気に登る。遠くに真っ白な飯豊山と吾妻の主峰西吾妻が次第に大きく高く輝きます。胸にしたたりつたう大汗が気持ち良い。

変化にとんだ尾根ルートだ。爆裂火口の沼の平を見下ろし荒々しい溶岩岩の船明神を攀じ、吹きさらしの馬の背から安達太良山頂上へそして薬師岳からロープウエィで安達太良スキー場へ下る。14:00 行動終了。標高差約 600m（1110m から 1700m）を 6 時間 45 分の行程、石橋支部長さんも南波さんも全員予定通り無事・見事に走破することが出来ました。一方で痛々しい地震の爪痕（キレツ・尾根を行く左手、沼の平側に緩みが明らか）が走り今回の企画山行がタイミングとして本当に多くの意味を含んだ実行になったものと実感したことでした。

船明神への登り

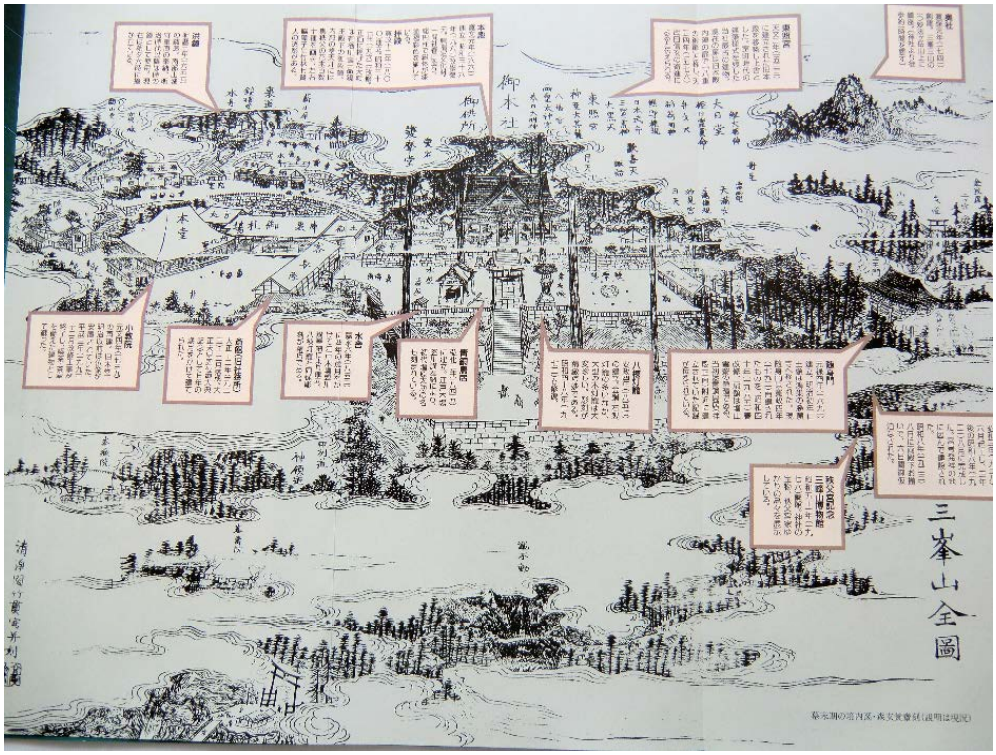
ところで、沼尻から船明神を上がったこのコースを選んだのは良いプランでしたね。バスやケーブルで高いところまで行ってスタートすることが当たり前のように多く計画されますが、実は登りにこそ大きな喜びあるのですね。大汗をかいて一呼吸を入れて景色を楽しむ、高度が上がるにつれて花も彩りを加え、遠くの山も一緒に上がって来て迫力を加えます。ケーブルで上がってしまってはこうは行きません。もったいない話です。帰りの長い下りも事故のもとです。

また逸見様の写真集「吾妻連峰」をありがとうございました。特に「稜線の朝」は胸に迫る臨場感です。この場所に立ち針葉樹の樹間に山スキーを滑らせることが出来ればどんなに気分が爽快なことでしょう、僕は吾妻をもっともっと知りたいと思いました。

福島支部の皆さまには本計画の交流会をとても楽しみしていただいたとお聞きしましたありがとうございます。本当に 3 月 11 以前にいつになったら戻ることが出来るでしょう。僕もこのとんでもないことへの重い怒りを何処に持っていたらよいか解りません。ただ一つ山に登り祈ることが勇気を与えてくれそうに感じたことでした。

三峯信仰

松本　敏夫



左；三峯山全山図 [3]
下；日本武尊像

国内には山岳信仰に基づく霊山が多数知られている。古くは葛城山や大峯山が山岳信仰の中心であったが、一般的には富士山、立山及び白山が代表格である。関東では箱根山、相模大山、武蔵御岳、榛名山、日光山及び筑波山等が知られている。埼玉県の代表的な山岳霊山には、三峯山、両神山、武甲山、宝登山、城峰山、慈光山、岩殿山、桂木山、子の山等が挙げられる。今回は、三峯信仰（三峯山）について紹介したい。

三峯神社の表記は古くから“三峰”ではなく“三峯”と記載されているので、“峯”と記載する [1]。三峯神社の歴史は古く、「当山大縁起 [2]」によると、日本武尊が東征の途中甲斐国酒折宮（さかおりのみや）から雁坂峠を越えて当山に登り、遥かに国中の地理を見渡し、神威の擁護を願い、仮宮を造営して、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）・伊弉冊尊（いざなみのみこと）を祀ったことに始まる。その後、景行天皇は東国巡幸に際し尊の戦跡を訪ねてこの山に登り、三山の高く聳え立つことを見て「三峯宮」の称号を授けたと伝えている。三山とは雲取、白岩、妙法の山々で、付近では特に秀でているところから、古くはこの三山を称して三峯と呼んでいた [1]。幕末期に描かれた三峯山全山図の版木 [3]には隋身門（旧仁王門）、御本社、青銅鳥居及び旧本堂が記載され、神仏習合の様式が確認できる。

鎌倉時代の三峯山は畠山重忠などの東国武士の信仰が篤く、修験道の霊場として発展を遂げた。天文二年（1532）に熊野修験者道満により堂宇が再建されている [2]。当初、三峯山は天台修験本山派に属し、越生の修験山本坊の支配下にあった。江戸時代には神仏習合形態の山岳霊山として本山聖護院門跡の直末となり、天台修験の関東総本山となり三峯山観音院高雲寺と号していた。また、熊野古道の中辺路には「大雲取越え、小雲取越え」があり、三峯山では中心の山を「雲取山」と呼んでいることからも、三峯の開山に熊野修験が深く関与していることが地名の類似より推測できる。明治五年の修験宗廃止令により三峯神社となった。

表参道　大輪

大輪のオイヌサマ

登竜橋

表参道入口

最近までは秩父鉄道三峰口駅から大輪までバスで行き、三峰山ロープウェイで三峯神社に参拝するコースが主であったが、ロープウェイが廃止され大輪から表参道を経由する登山者や参拝者が激減している。江戸から三峯神社への参詣道は、中山道で熊谷に行き寄居を経由して秩父・贄川へ、板橋から川越街道で川越・小川・粥新田峠・曽根坂峠を越えて秩父へ、田無から所沢・吾野・正丸峠を経由して秩父に到る3本が主となるルートであった。三峯山へは贄川宿で一泊し、大輪から表参道に入り登竜橋を

渡って五十二丁の急坂を登り、三峯山に詣でていた。その日のうちに贄川宿に帰るか、山頂の宿坊で泊ることになる。かつては贄川宿に三峯神社の一の鳥居があったが大正初期に大輪に移転している。三峯山が山岳霊場として確立されたのは相模大山や武蔵御岳よりも遅かったことから、御師制度を確立することが出来なかったことが特徴的で、そのため表参道に講社の便宜を図る宿坊はない。一方、県外からの参詣道として、上州から吉田・小鹿野経由で贄川宿へ、甲州からは雁坂峠経由で栃本関、信州からは梓山・十文字峠・白泰を経由して栃本が一般的であった。

三峯神社の繁栄は享保五年（1720）に入山した日光法印が守護神として狼（山犬）の神札を発行して信者（三峯講）拡大を図ったことに起因する。日光法印が山上の庵室に静座していると、山中何処とも知れず狼が群れ来り境内に充ちた。法印はこれを神託と感じて猪・鹿・火盗除けとして山犬の神札を貸し出したところ霊験があったとされている [5]。また、幸田露伴は、三峯の神使は大神即ち狼であり、月々19 日に小豆飯と清酒を本社から八丁ほど離れた所に置く、と登山の折の記録に残っている [5]。山犬の神札は、初めは農民に猪や鹿などからの被害を防止するためとして、江戸や宿場の町衆へは火災や盗難除けとして霊験があったことに由来する。また、火災で焼失した江戸城普請の為に幕府へ献木やお札の献上を行っている。防火、盗難除けや木材伐採にかかわる山の神への信仰が江戸の材木商などに三峯信仰が爆発的に増加したことが指摘されている [4]。

三峯神社　隋身門

三峯神社　本殿

オイヌサマ

三峯神社のお札

狼信仰で知られている三峯神社は狼をオイヌサマと呼んで崇敬している。稲荷神社のキツネと同様に、この狼のことを一般にご眷属神と称している。三峯神社ではご眷属信仰と呼ばれ、三峯信仰の中核である [4]。三峯神社が所蔵する「三峯山大縁起」に狼に関する記事が記載されていて、山の神として大山祇命が祀られ、その使者として狼が記されているとのことである。山犬信仰の地域には、実際に狼が生息し、畑を害する猪鹿を追い、人家に忍ぶ賊を恐れさせ、更に、火災の危急を知らしめた例を里人は知っていたためで、これがいつか信仰にまで高まったものと思われる [5]。

大輪から表参道に入り登竜橋を渡ると山頂までの五十二丁を標した丁目標（石）がある。古い丁目標は東京神田の八州講で発議し三峯燈楼と名付けて各丁毎に六尺豊かな石灯籠を寄進、丁目標にかえた。白御影石のスッキリした姿であったが、現在は隋身門の前後の参道両側に結集している。また、以前の古い丁目標は二十五丁目、三十一丁目、登山口及び山頂のみを残すとのことである [6]。

現在の三峯神社には本山派修験が活躍した輝かしい時代を窺い知ることが出来る建物は残されてない。僅かに三峰山博物館で役行者像、三峯大権現像、不動明王像等を見ることが出来る。ここには、秩父市内の内田氏宅で発見されたニホンオオカミの毛皮が展示されている。また、表参道の途中にある「清浄の滝（きよめのたき）」は薄暗い樹木の中に落ちついた雰囲気を感じさせ、滝の奥には滝不動が安置されていることから修験者の滝修行の場であったことが容易に推測される。

丁目標（石）

役行者像
（三峰山博物館蔵）

清浄の滝

ニホンオオカミの毛皮
（三峰山博物館蔵）

参考文献

1) 沼野　勉著、さきたま文庫 7 “三峯神社”、発行所：㈱さきたま出版会（1989 年）
2) 当山大縁起：神社の創建から江戸時代中期頃までの出来事と由来が記載されている
3) 三峯神社パンフレット：森玄黄齊刻
4) 西村敏也著、「武州三峰山の歴史民俗学的研究」（岩田書店、2009 年）
5) 埼玉の神社（発行者：埼玉県神社庁、昭和 61 年 4 月発行、第一法規出版）
(注)幸田露伴の原文は、「知々夫紀行」（岩波文庫「山の旅　明治・大正篇」に所収）を参照方。
6) 新井　啓著、「新・三峯山誌　第二集、平成 3 年 4 月：発行所零々舎」

第３回安全登山講演会
『夏山登山の山岳気象』開催

●日時:平成23年6月15日(水)19:00～21:00
●場所:さいたま市大宮区　仲町川鍋ビル8階会議室
●講演内容

城所邦夫氏(日本山岳会会員、元気象庁勤務、山岳気象アドバイザー)は、登山では平地の天気予報を参考程度にして上空の状況(寒気が入ってくるなど)をよく知ることを念頭に、夏山(6月～8月)シーズンに向けて天候の特徴と気象の全般的なこと、知っておいて欲しいことなどを話題にしたいと前置きして講演を始めた。

まずは、梅雨について。平均的な梅雨入りの月日(*1)、タイプ分け(*2)、中休みでの梅雨前線の位置(*3)、末期の前線が活発化したときの梅雨明け直前の状況など、天気図を例示しての話は分かりやすいものだった。

(*1)関東甲信越地方の場合はこの30年間の平均では6月8日頃が梅雨入りとなる。
(*2)今年の場合は陽性型(晴雨がはっきりしている)だった。
(*3)北上型、南下型があり、登山の場合には南下型が行動にはよい。

さらに梅雨明け10日(*4)、太平洋高気圧の強い張出しによる安定して続く天気から、高気圧が衰退して夏台風シーズンを迎える(*5)ことで、夏台風の特徴や秋台風との違いのほか、台風に関する定義などの説明があった。

(*4)よい天気が続くが太平洋高気圧の張り出し方によって雷が多く発生する可能性。
(*5)台風は特に山の天気に大きく作用する。

次に、雷(*6)は上空の空気の不安定な状態の中では四季を通じて発生するが、特に夏の風物詩のひとつとして、雷の種類、性質、鳴りだしたら三日続くという話、雷雲について、予知と安全な避難場所、避難の仕方など、話は基本的知識に始まり、予知と対応(避難)まで微に入り細に渡っていた。

(*6)各地の天気予報で雷雨という予報が出たら要注意。夏山安定時は雲海が安定して雷は少ない。

続いて、止まらない気象遭難事故防止のために、気温減率(*7)という基本事項の確認、最近の事例トムラウシ山遭難事故から低体温(*8)による症状変化についての解説があった。

(*7)気温減率;100m 高度が上がるごとに 0.6℃気温が低下すること。厳密には 0.3℃(湿っている時)～1.0℃(乾燥時)と開きがある。例えば頂上(標高 2800m とする)は気温 30℃の山麓(標高 300m とする)と比べると、標高差が 2500m であるので、(2500÷100)×0.6＝15℃の気温低下、すなわち 30－15＝15℃となる。
(*8)風速 1m で体感温度が 1℃低下する。

最後に、大きな気象現象に基づく変化と、気象情報が得られない場所での貴重な判断材料となる観天望気について、低気圧と不連続線に伴う天気分布、雲と降雨の状況の解説は、気象に関する基礎知識や高層天気図についての知識がなければ、天気図を理解し、予測することは難しいと感じた。

観天望気の事例としてスライドによる、北岳山頂から見た雨雲の動きと天候が悪化していくリアルな様子は分かりやすく、今後の観天望気をするうえでの手本になった。

(*9)上層部の高層雲と下層部の層雲や層積雲がせまってサンドイッチのようになると短時間で天気が悪化する。

観天望気の事例を説明する講師の城所邦夫氏

会場は、支部会員より一般の聴講者の方が多く盛況であった。気象は関心が高いテーマであると認識させられた。(以上、渡邊宏氏の報告書をもとにまとめました)

50山ラリー実施状況

本号から50山の山行状況をルートと写真で紹介します。これから登られる方の参考になれば幸いです。

●2011-06-04　No.48/49　観音山(77.4m)/丸墓山(35.7m)
高崎線籠原駅→観音山→籠原駅→(電車)→北鴻巣駅→(武蔵水路沿い緑道)→丸墓山(さきたま古墳公園内)→(バス)→忍城→(バス)→吹上駅

籠原駅から観音山へのアプローチ

北鴻巣駅から武蔵水路沿い緑道

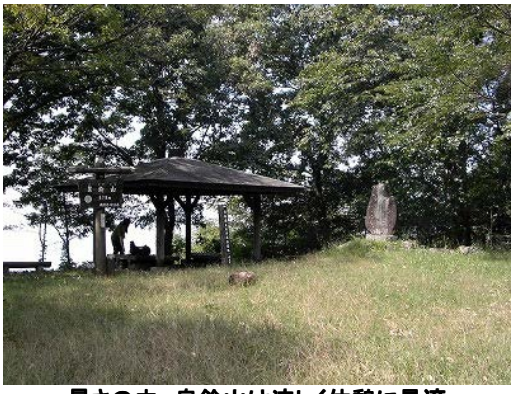
●2011-07-02　No.24　棒ノ折山(969m)
西武池袋線飯能駅→(バス)→さわらびの湯→登山口(白谷沢入り口)→(沢沿いの登山道(*))→林道を横切る→岩茸石→ゴンジリ峠　→棒ノ折山→ゴンジリ峠→岩茸石→(滝ノ平尾根)→さわらびの湯(希望者は入浴)→(バス)→飯能駅
(*)一部のメンバは白谷沢を遡行した。

棒ノ折山

●2011-08-27　No.23　城峰山(1037.7m)
秩父鉄道皆野駅→(タクシー)→男衾登山口→(表参道)→城峰神社・キャンプ場→城峰山→鐘掛城→門平→(タクシー)→皆野駅
埼玉支部主催山行では珍しく本格降雨。

雨中で目立つテンナンショウの実

●2011-09-10　No.31　登谷山(668m)
八高線/東武東上線小川町駅→(バス)→打出→二本木峠→愛宕山→皇鈴(みすず)山→登谷山→釜伏峠→釜伏山→日本の里→秩父鉄道波久礼駅(かんぽの宿で入浴)


暑さの中、皇鈴山は涼しく休憩に最適

●2011-10-01　No.21　御岳山(1080.4m)
秩父鉄道三峰口駅→町分登山口→山ノ神→タツミチ→御岳山→杉ノ峠→落合登山口(普寛神社)→大滝温泉バス停(希望者は遊湯館(*)で入浴)→(バス)→秩父鉄道三峰口駅または西武秩父線西武秩父駅
現在、落合登山口から沢沿いに登る「落合コース」は落石の危険があり閉鎖になっており、下山は杉ノ峠を経由した。
(*)遊湯館は、支部報第3号「埼玉県温泉情報」の No.12 で紹介した温泉です。

山頂から両神山を望む

50山山行への参加をお待ちしております。また50山の様子をホームページに掲載しているので是非ご覧ください。皆様からの情報も掲載しますので、情報をお寄せください。

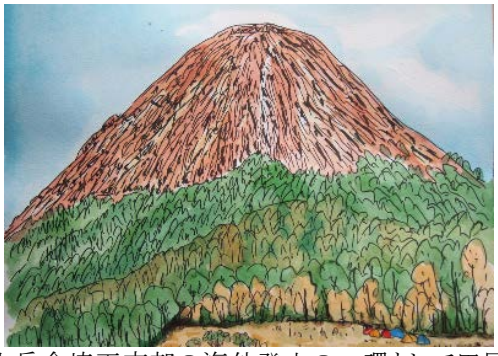
埼玉支部会員のための50山の一覧

No	山名	標高	支部山行実施状況
1	三宝山	2483.3m	
2	甲武信ヶ岳	2475m	
3	木賊山	2468.6m	
4	雁坂嶺	2289.2m	
5	飛竜山	2069.1m	
6	白石山	2036.0m	
7	雲取山	2017.1m	2011-11-19,20 (三支部合同登山予定)
8	笠取山	1953m	
9	三国山	1834m	
10	両神山	1723.0m	2011-4-9 総会記念山行
11	天目山	1718.3m	
12	大平山	1603.0m	
13	霧藻ヶ峰	1523.1m	2011-11-19,20 (三支部合同登山予定)
14	蕎麦粒山	1472.9m	
15	秩父槍ヶ岳	1430m	
16	熊倉山	1426.5m	
17	矢岳	1357.9m	
18	武甲山	1295.4m	2010-11-13「50 山山行」
19	有間山	1213.5m	
20	二子山	1165.8m	
21	御岳山	1080.4m	2011-10-1「50 山山行」
22	武川岳	1052m	
23	城峰山	1037.7m	2011-8-6「50 山山行」
24	棒ノ折山	969m	2011-7-2「50 山山行」
25	丸山	960.3m	2010-4-11 設立記念山行
26	堂平山	875.8m	2011-12-10 忘年山行(予定)
27	伊豆ヶ岳	850.9m	2011-11-5「50 山山行」(予定)
28	笠山	837m	2011-12-10,11 忘年山行(予定)

29	四阿屋山	771.6m	2011-3-5「50 山山行」
30	大霧山	766.6m	2012-3-3「50 山山行」（予定） 忘年山行２日目になる可能性もあり
31	登谷山	668m	2011-9-11「50 山山行」
32	破風山	626.5m	
33	簑山	586.9m	2011-5-7「50 山山行」
34	越上山	566.5m	2012-2-4「50 山山行」（予定）
35	陣見山	531.0m	
36	宝登山	497.1m	2011-2-5「50 山山行」
37	大築山	466m	
38	雷電山	418.2m	
39	物見山	375.4m	2011-1-8「50 山山行」 2011-4-17 ふれあい登山
40	鐘撞堂山	329.9m	2012-1-3「50 山山行」（予定）
41	日和田山	305.0m	2011-1-8「50 山山行」 2011-4-17 ふれあい登山
42	金勝山	263.9m	2010-12-11 忘年山行
43	天覧山	197m	
44	物見山	135.0m	
45	二ノ宮山	131.7m	
46	荒幡富士	119.1m	
47	大久保山	112m	
48	観音山	77.4m	2011-6-4「50 山山行」
49	丸墓山	35.7m	2011-6-4「50 山山行」
50	浅間山	約 20m	2011-1-15 支部懇談会

(注)これまで「埼玉50山」と言っておりましたが、一般者の誤解を避けるために「埼玉支部会員のための50山」としました。

インドネシア・スメル山（3,676m）登山の旅



日本山岳会埼玉支部の海外登山の一環として田尻一實さんを隊長に奥様の順子さん、松尾治さん、石塚昌孝さん、金子鵬一さん、加藤晴久さん、南波克行さん、正田緑さんと冨樫の９名がインドネシアのジャワ島の最高峰のスメル山3,676m を目指した。

2011年9月9日（金）晴れ

成田空港第2ターミナルには先発している田尻ご夫妻を除いて7人が集合し、ガルーダ・インドネシア航空の 11:00 発にEチケットで7名まとめてチェックインをする。7時間 30 分のフライトでバリ島のデンパサールに 18:30 に到着する。空港には田尻夫妻と通訳・ガイドのマディさんが迎えに来てくれた。車で宿泊地のウブドまで1時間のドライブ。気温は赤道直下にかかわらず日本より少し涼しい感じである。

2011年9月10日（土）曇り

バザールを見物して迎えの車に乗り、湧水で沐浴しているテルタアンプル寺を見る。石造りのヒンズー寺は静かなたたずまいで多くの参拝者がおり、悪い心を清めるため沐浴をしていた。古い歴史のある寺を見る。寺も古いが、庭に菩提樹の巨木があり、元の木が解らないぐらい周辺の気根が太くなり周囲が40mはあろうかと思えた。16:00にコテージに戻る。

2011年9月11日（日）曇り後雨

フェリー乗場に到着する。ここで運転手と別れるが、マディさんは我々と同行する。港にはジャワ島のガイドのココさんが出迎えていた。10人乗りのバスと小型車が用意され我々はバスに乗車する。ジャワ島は西に位置して時差がさらに1時間発生する。17:00に大きな屋根の KALIBARU COTTAGES に到着する。ヤシ・バナナ・ブーゲンビリア・熱帯植物が茂る広い庭園の中に2人部屋の赤い屋根のコテージが散在する。

2011年9月12日（月）曇り時々小雨

2台の車に分乗してラヌパニに向かう。山道に入り、海抜500m のスンドゥロの BALAIBESAR TAMAN NATIONAL ゲートで入山料を支払い、いきなり急坂になる。バス1台がやっと通れる狭い道だが、対向車がなく助かる。海抜 800m の付近は赤い肌の杉(？)があり、これを伐採し運搬するトラックがいる。海抜 1,500m 付近は巨木が天空を覆う熱帯雨林で、巨木にはサルオガセが垂れ下がり、幹にはシダやランが着生しており、ヘゴの木が密生しているジャングルである。2,000m 付近は松が多い。道はいきなり高原野菜地帯に飛び込む。急な山肌には畑が作られ、ねぎ・キャベツ・きぬさやえんどうが栽培され、道端には大根の花(？)が野生化している。山の中の小さな村と思ったら人口 1,000 人からの村であった。村中にある宿の前がキリスト教の教会で近くの回教のモスクからマイクを通して礼拝の祈りがあり、近くにはヒンズーの寺がある。仲良くやっているようだ。夕空に遠くスメル山のシルエットが見える。宿はベッドだけの2人部屋で食堂が宿の入口にある。シャワーがあるがお湯は少々で、トイレは男女共用で手桶で水を流す方式である。夕食には冷えたビールが提供され、料理はジャガイモを練って団子にしたコロッケ、豆腐・鶏肉を油で揚げたもの、野菜のスープを白米にかけていただく。

2011年9月13日（火）晴れ

快晴の朝で 4:00 にコーランのマイクで起こされ、5:00 に鶏の鳴く声で起こされそれでも寝て、6:00 に起床、6:30 朝食。朝食はチャーハンとじゃがいものフライと食パンとジャムとコーヒーと紅茶で、こんな山の中で食パンが出るとは驚きである。7:40 に出発する。他の宿から出てきたドイツ人グループと合流するが抜かれる。昨日来た道を少し戻りゲートの手前を右折し、畑の横をしばらく歩いて左手の山道がルートになる。細い登りの坂道で高度を上げるとこの村の高原野菜地帯全体が見渡せる。かなり奥行きが広く、様々な種類の野菜が栽培されている。生産物は車で下の町のバザールに運ばれる。道には四角や6角形の石で丁寧に舗装されており歩きやすい。この道は数キロ続いている。道の両脇にはノボタン・インパチエンス・ミズ・カッコウアザミ等日本にも見られる植物があるが、巨大なヘゴの木には驚いた。霧の多い所の特徴で松にはサルオガセが垂れ下がり、幹には複数の種類の着生ランやシダ・モンステラーが付着している。山肌に焼けた跡があり、まだ燃えているところがる。落雷による山火事である。故意に火を点け、焼き畑状態にしているところも複数個所見受けられた。乾燥しているのでよく燃えるが消火活動はしていない。11:30 にガスの中から湖が現れる。ラヌクンブロ湖で岸辺には大勢のトレッカーが昼食のため休憩している。我々も

ポーターが作った昼食を食べてから出発する。スメル山との峠に向かって草原の中を1時間歩き、14:30 に 2,750m の峠で高度順化のため 30 分休憩する。ここからスメル山がよく見える。山の半分が樹林帯でその上が赤茶けた火山灰土の裸の山である。雨による浸食された縦の溝が見え、ルートらしい白い道も見える。30 分で今夜のテント場に到着する。屋根の壊れた建物があるが、炊事用で我々はココさんが用意したテントに宿泊する。スメル山のスケッチをしてテント場に戻ると仲間は誰もいない。ココさんに聞くと神の雫の水場を見に行っているという。すぐ後を追うが追い付かない 15 分ほど水のない谷間を下ると仲間の声が聞こえ、やがて右手の岩壁から水が滴り落ちている水場に到着する。あまり水量は多くなく水をトタンで集めているが、集めるのは大変である。疲れた体には戻るのも大変であった。夕食時にはポーター達が焚火をする為近くの木を切って盛大に燃やしてくれる。ここに来て初めて聞いたのだが、明日は頂上でご来光を迎えるために夜中に出発するという。スメル山名とは別に最高地点はマハメールと呼ばれインドネシアのヒンドウー教では聖山である。

2011年9月14日（水）晴れ

0:00 に起床。ミルクとパンと紅茶をいただいて 1:00 に出発する。田尻さんは体調不良で登りはキャンセルしてテント撤収後にポーターとラヌクンブロ湖まで高度を下げ、場合によってはナヌパニ村まで下山する。田尻隊長からスメル山登山の隊長代行を指名される。松尾さんが適任と思うが引き受ける。テント場の海抜が 2,600m でスメル山は 3,676m なので高度差は約 1,100m ある。真っ暗なテント場をすこし下ってからスメル山の登山口に取り付く。我々８名に５人のポーターがついて来た。いきなり急坂で懐中電灯の明かりを頼りに火山灰のほこりが舞い上がる道を進むが、暗いので後方が見えない。南波さんが遅れており、間が開いたようで南波さんを2番手に来てもらい再び一団となって樹林帯の中を登る。埃はあるが登りやすい。1時間強ぐらい登った 3,000m 付近で樹木が無くなる。ここから崩れやすい砂利道である。道は軽石状の火山灰土で、1歩登ると半歩ずり落ちる。歌の文句のように3歩登って2歩下がる。懐中電気の明かりで足場がよく見えず堅い岩がなく、全てずり下がるので疲労が激しい。見かねたポーターが手を出すのでひっぱってもらうが大変。力強いポーターの脚力に感心するが足場の悪さは解決しない。途中で疲れて登るのが嫌になったが仕方がない。明るくなり始めポーターから杖になる棒を渡され、自分で足場を定めながら調子を上げてゆく。頂上のご来光には間に合わず、太陽が出てきて周辺が明るくなってきた。登っているルートの両サイドは雨による浸食で深い溝になっておりずり落ちると軽い怪我では済まない。ルートのへりで人が歩いていないやや硬い所を登ると危険をサッチしてポーターがそれ以上へりに寄らないよう声をかけてくる。元気のいい金子さん、正田さん、加藤さん、田尻淳子さん達は先に登りだした。残りは少しずつピッチを上げて後を追う。やがて傾斜が緩くなり頂上の道標が見え、平らな所の50m 先に大勢の人が見える。7:30 到着する。登りは６時間 30 分かかった。砂礫の道に5時間を要した。遅れてきた仲間を待って、頂上で記念写真を撮る。

頂上はガスで下界は見えないが、尾根続きの噴火口では時々小噴火があり噴煙が上がっているのが見えるが、周辺のガスで写真には写らないであろう。30 分ほどジャワ島の最高峰の雰囲気を楽しんで 8:00 に下山を開始する。下山は富士山の須走ルートと同じで勝手にすべりおちる。途中で休憩を考えたが、安全に休む所がなくポーターに援護されて全員快調に下山している様なのでそのまま火山灰の埃の中を下る。樹林帯の入口の少し先に広いところが有りそこで休憩する。急ぎ過ぎたために数人の後続がついて来ず別れた休憩になってしまった。途中で一度休憩を入れたほうが良かった。樹林帯の中で一度休憩しただけで 9:40 にテント場に到着する。下りは1時間 40 分であった。テント場には田尻隊長が出迎えて全員の登頂を喜んでもらったが、皆からは世界最悪の山との話があり困っていた。自分を手助けしてくれたポーターはこのグループのサブリーダーで棒を返しながら日本のタバコを1箱お礼で渡す。タバコは事前に全員が田尻さんから頂いたもので隊員の皆さんもお礼に使っていた。田尻さんは体調が少し良くなったが、大事をとってココさんとポーターと3人でラヌパニ村まで下山をする。昼食後テントを撤収して 12:00 にラヌクンボロ湖に向かう。途中ですれ違う登山グループと交流しながら 14:30 に湖に到着する。ポーター達が山から枯れた木を担いで下し、盛大に焚火を楽しんだ。岸では釣りをしており 5cm ほどの小魚を釣り上げていた。テントの外で月が出てきて湖面をいれて3つの月が見えると騒いでいるが疲れていたので見ないで寝てしまう。

2011年9月15日（木）晴れ

テントは夜露でびっしょりで湖面はガスで見えない。7:30 に出発して湖の反対側で湖をバックに集合写真を撮影する。のんびりと歩き、途中の東屋で登って来たインドネシアの大学山登りグループと国際交流を楽しんだ。12:10 にラヌパニ村に到着する。田尻さんの出迎えを受ける。元気そうなので安心する。昼食後3台のジープで来た道とは反対の道を登り尾根沿いに進んで分岐点に到着。車をおりて下を見ると広大な谷底が見える。所々に草原・砂地・黒い大地が見える。これがブロモカルデラで谷底を目指して急坂をジープでゆっくり、未舗装の草地や砂漠城の道を 20 分近く走ると左手に頂上まで階段が作られているブロモ火山とその麓のヒンズー寺と馬方の小屋が現れる。馬方は寺かブロモ山の麓まで馬に乗ってもらおうと寄ってくるが我々にその時間はない。さらにその

先に進むかと思いきやここから引き返し先ほどの分岐まで登り返し、分岐の左の道を次第に高度を下げて 17:00 に着いた大きな都市が州都のマランで、海抜 500m の街は暑い。

2011年9月16日（金）晴れ

9:00 にマイクロバスで出発し、小鳥のバザールを見物する。ジャワ島にこんなにたくさんの小鳥がいたかと思うほどたくさんの種類の小鳥がかごに入れられ売られている。1羽 25 円ぐらいらしい。小鳥以外にふくろう・にわとり・カラス・鳩・ヤモリ・ウサギ・ハムスター・ハリネズミ・ペルシャネコ・サル達や釣りの餌の昆虫まで売っていた。途中から高速道路に乗り 16:30 にスラバヤに到着する。

2011年9月17日（土）晴れ

11:00 に出発してオランダからの独立の舞台で掲げられたオランダの旗の青い部分を切裂いて赤と白をインドネシアの国旗にしたというエピソードのあるホテルで当時の貴重な写真を見る。バスで混雑する道を空港に向かう。スラバヤからデンバサールまでの国内線のカウンターで荷物を成田まで預け身軽になる。フライトは1時間弱でデンバサールに到着する。国際線のカウンターでチェックインして 15 万ルピーの空港税を支払い、出国手続きをする。満席の機は 00:45 にテイクオフし、一路日本に向かう。

2011年9月18日（日）晴れ

8:50 に成田国際空港に到着する。気温は 29 度でインドネシアより蒸し暑い。正田範満さんが迎えに来ていた。

以上　冨樫記

自然保護委員会の活動紹介

1. シンポジウム「埼玉の自然を知ろう！」を開催

●日時：2011/09/14(水)18:30～20:30

●場所：浦和コミュニティセンター10階第14集会室

●内容

(1) 地形・地質と山体の崩壊について（北原秀介）

・埼玉県の現在の形態になるまでの成り立ち、及び天災・人災による山体の崩壊を鉄道トンネルの経験をもとにしてメカニズムを紹介。

(2) 絶滅危惧種の紹介（高嶋徳紘）

・県内の絶滅危惧種23種(*)について写真による紹介。

(*)カテゴリーとしては、「絶滅」2種、「野生絶滅」2種、「絶滅危惧Ⅰ類」2種、「絶滅危惧Ⅱ類」14種、「準絶滅危惧種」3種。棲分けとしては、山地性8種、洪積台地性3種、中積低地性12種。

(3) 鹿被害の紹介（金丸一豊）

・ニホンジカの被害調査

5月21～22日に実施した天理岳北斜面、二子山南西斜面での鹿被害調査の状況、夏に実施した奥秩父主稜線上の調査の状況を紹介。最近は秩父山地だけでなく、丘陵部でも鹿被害が見られる。

・日本山岳会埼玉支部自然保護委員会の活動

ニホンジカの生態や被害状況調査、防護活動等を通じ貢献したいと考えている。

支部会員だけではなく県内の団体、本部・東京多摩支部の自然保護委員会からも参加いただき第1回のシンポジウムとしては盛会であった。

2. 森づくり

今年度から埼玉森林サポータークラブの団体会員として年3回の活動を予定している。ゆくゆくは一つの場所を任されて活動する予定である。

(1)平成 23 年度第1回活動（6月 26 日）

埼玉森林サポータークラブ主催の入間市緑の森博物館周辺の「緑の森活動の月例会」に参加。埼玉支部から3名が参加、総勢 25 人。曇り空で気温も上がらず作業には好都合。作業は長い手鎌による下草刈り、子供達がドングリから育て植樹したコナラ・ミズナラ等が草むらに隠れ、人手による下草刈が無ければ生育は望めない。馴れない鎌つかいも終盤にコツを掴み、作業は午前中で終わった。緑の森博物館は自然そのものが展示物であり、ちょうどヒメザゼンソウの花（下の写真）が見られた。

(2)平成 23 年度第2回活動（9月 25 日）

今回も緑の森博物館周辺での月例会に参加。龍委員長以下6名が参加。彩の国みどりのサポーターズクラブ6名埼玉県みどり再生課6名、主催の森林サポーターヅクラブを入れ総勢35名。里山の景観保全、狭山丘陵の雑木林の保存が目的であり、コナラ、クヌギ等植林地の、幼木に絡まった葛つるを大鎌・鋏による除去。執拗に絡まる葛つるにコナラ等の幼木はまさに生死の境にあった。6月に葛刈りがあれば、これ程までには至らなかったろう。この度は、相当数の幼木を救えたと確信しているが、森づくりは、ボランティアの参加増員にかかっている。作業は午前中だけなので埼玉支部のメンバは昼食後に作業した場所の近所を散策。秋の里山を味わった。

(3)平成 23 年度第3回活動（予定）

1～2月に実施予定で森林サポータークラブとの調整を行う。東吾野での枝切りを考えている。時期・場所が決まったら参加希望者を募集します。

3. 自然観察会

大高取山での観察会を予定。当初は11月末頃を予定していたが、講師の都合で来年1～3月に実施します。日程が決まったら参加者を募集します。

埼玉支部の委員会状況

各委員会からの情報です。支部委員会での情報をもとに、支部報前号発行以降の状況を広報委員会で編集したものです。

●総務委員会
- 他支部の会友制度を調査
  他支部の運営規定を調査するとともに、社会貢献委員会とも連携して埼玉支部での運営規定を検討、および支部紹介パンフレットの改訂中
- 公益法人化に伴う会計制度に関する本部説明会参加
- 全国支部懇談会は再来年に廻って来そうなので開催内容の検討を進めて行きたい。（来年の開催は千葉支部に決定）

●広報委員会
- 携帯電話向け埼玉支部行事案内ページを提供
  http://jac.ec-site.jp/keitai/Kmenu.html
- 50 山ホームページのリニューアル
- 支部報第 4 号編集

●山行・集会委員会

[50 山山行]
- 第 8～12 回を実施。今年度の予定を含めて本号の「50 山ラリー実施状況」を参照方

[その他山行]
- 福島支部との合同山行（本号の記事を参照方）
- 上高地／焼岳（7/30,31 実施）、・南会津（10/29,30 実施）
- 三支部合同の雲取山は台風の影響で 11/19,20 に延期

[忘年山行と講演会]
- 12/10,11 に予定。（笠山・堂平山・大霧山）

●自然保護委員会

(*)本号の「自然保護委員会活動紹介」を参照方。

●安全登山委員会
- 6/15　第 3 回安全登山講演会「夏山登山の山岳気象」実施（本号の記事を参照方）
- 10/19　第 4 回安全登山講演会「やまのファーストエイド」実施
- 来年 1 月　第 5 回安全登山講演会「県内遭難事例・対策」予定（今年 1 月の第 2 回安全登山講演会と同様）
- 来年 2 月　第 1 回講習会（救急法）予定
- ホームページ、メールにより山岳遭難・登山道・安全登山に関する情報を随時提供

●社会貢献委員会
- 支部紹介パンフレットの改訂中

埼玉支部の同好会状況

●陸地測量部
- 毎月の例会を浦和駅前で実施しています。
- 11 月に調査山行を実施予定です。
- 調査山行の状況と、各部員による県内の三角点調査の状況を発表していきたいと思います。

●アルパインスケッチクラブ埼玉支部
- 埼玉県には沢山の絵になる山があります。クラブとしてスケッチ山行が開催されておりませんが近い内に第1回スケッチ山行を実施したいと思います。

埼玉支部の会員異動(2011 年 10 月末日現在)

入会：　橋本久子　14909　　山崎保夫　14954

退会：　吉川　昭　6565

編集後記

節電の夏はいかがでしたでしょうか。夏休みが増えたという方もいらっしゃるようです。さて、埼玉支部の行事も増えて、第 4 号は予定していた時期より遅れてしまい、頁数も 10 頁になってしまいました。今号では特に山岳信仰の山である三峯山について書いて頂きました。今後も県内の山岳信仰について載せたいと思っています。（堀川）

日本山岳会埼玉支部報　第 4 号
2011 年(平成 23 年) 10 月 31 日発行
(社)日本山岳会　埼玉支部　発行者：石橋正美　編集者：堀川清
事務局：〒365-0053　鴻巣市緑町 5-16　冨樫方
ホームページ：http://jac.ec-site.jp
E メール：info@jac.ec-site.jp